



卓 話



イニシエーションスピーチ

佐藤 文則 会員

1948年(昭和23年)1月21日、新宿区霞ヶ丘町に生まれました。父：新一、母：春江の長男、姉：浩子、弟：重夫の3人兄弟。父(平成元年8月に逝去)は近衛



師団の騎兵として閑院宮春仁王(のちに純仁王)の側近警備をし、終戦後は警視庁警備部警衛課に入庁、総理大臣の専属護衛官として57歳まで勤務しました。戦後の混乱期であった為、夏休みに旅行する等の家族サービスは皆無でしたが、家にいる時は優しい父であり、面倒見の良い母でした。父が激務をこなしていた事、母はその対応に相当苦勞をしていた事、この二つを今でも鮮明に覚えています。

1954年(昭和29年)4月、新宿区立四谷第6小学校入学。入学試験のときに風邪をひき、幼稚園に行っていなかった為か学級分け=クラスという概念が無く、近所の友達の居た隣のクラスで授業を受けて担任の先生に怒られた思い出があります。しかしこれにはもうひとつの理由がありました。隣のクラスの担任の女性教師が私の初恋の人であった事です。その後1956年(昭和31年)第3学年の夏、警視庁官舎が新宿区の柏木に竣工した為に、淀橋第一小学校に転校し、明治神宮や外苑の自然に恵まれた環境から都会の下町に連れて来られたという印象でした。1960年(昭和35年)新宿区立淀橋中学校に入学、1963年(昭和38年)日本大学第二高等学校入学、1966年(昭和41年)日本大学法学部法律学科に入学。1964年(昭和39年)、父の退官に伴い武蔵野市に転居。高校では吹奏楽でホルンを、大学では2年生まで軽音楽部ハワイアン研究会で司会を担当。夏、春の演奏旅行は日本全国を巡り楽しい学生生活を送れるものと思った矢先

に大学紛争が勃発。学園封鎖の期間中は、父の紹介で(株)石原プロモーション(通称：石原プロ)で映画「栄光への5,000キロ」の制作進行助手、そして日本テレビの「素晴らしい世界旅行」の中の日立の生CMのフロアディレクター等を経験しました。

1970年(昭和45年)日本大学卒業後新日本製鐵に入社しましたが、中途半端な勉学に不満であった事に加えて、アルバイトで経験した広告業界に興味を持った為、勤務の傍ら久保田宣伝研究所コピーライター養成講座の一般・専門の各コースを受講して、1972年(昭和47年)4月に広告制作会社最大手の(株)日本デザインセンターに入社。アシスタントを経て、1974年(昭和49年)にトヨタ自動車のコロナとマークIIのプロデューサーを担当。翌年トヨタ自動車の海外向けプロデューサーに担当替えとなり、その後11年間の海外向けの広告づくりを通じて、トヨタ自動車の海外販売戦略の再構築と、それによる独自の商品開発と発売準備の現場を目と肌で経験させて戴いたものが今日の会社経営の基礎になっています。

この間に、横田貴久江と1973年(昭和48年)に結婚。翌1974年には長女礼奈、1977年には二女由佳が誕生しました。

1983年(昭和58年)同社を退社して、(株)セットインターナショナルを設立。新スタッフの準備・教育期間を経て、翌年よりトヨタ自動車との取引を開始。今までに経験したノウハウで新車発売準備作業から商品情報の整理、競合車との比較優位点の抽出、販売促進素材の制作、広告制作、販売店サポートまで幅広いパートナー活動を続けています。また、トヨタ自動車関連の自動車会社、部品会社をはじめ窓具メーカー、英国大使館等々、商品の販売促進に関わる広告宣伝制作物の制作でお手伝いをさせて戴いています。

生活信条は、「信頼。感謝。奉仕」。「仕事やプライベートでお会いした方々を信頼し、感謝をし、感謝の心で奉仕する」この3つの心と行動を大切にしています。